

令和5年度 芸北中学校 学校評価自己評価表（最終）

学校教育目標：大いなる夢と芸北への誇りを持ち、たくましく生き抜く生徒の育成
 ◎めざす生徒像 …たくましく生きていくために必要な体力と精神力を持った生徒。あいさつを励行し、ふるさとを愛する生徒。確かな学力を身に付け、自ら考え自ら判断し自ら行動できる生徒。
 ◎めざす教職員像 …自ら学び、確かな授業力を身に付けた教職員。自らの個性を發揮し、新たなことにも積極的に挑戦する教職員。他の教職員と連携・協働し、組織的に職務を遂行する教職員。
 ◎めざす学校像 …生徒の安全・安心を最優先にする学校。小規模校だからこそできる教育実践を行い、全員が成長する学校。保護者・地域に開かれ、保護者・地域から信頼される学校。

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価方法	目標値	中間の達成割合	目標に対する割合	最終の達成割合	目標に対する割合	評価	成果と課題の分析	改善の方向性	学校運営協議会評価	
													評価	コメント
健やかな体	たくましく生きていくために必要な体力と精神力を持った生徒の育成	・体力テストの課題を克服（脚力の向上）	・体育の授業、学校行事、部活動で課題克服のための共通した手立てを行う。	・2年生の体力テストの全国・県平均との比較	平均値を下回る種目を昨年度より1種目以上減らす。	100%	100%	100%	100%	4	5月実施の体力テストでは女子の握力が伸びてきている。9月長期休業明け実施した体力テストでも向上傾向にある。冬季もスキー等体力を低下させない取り組みを行った。	小中高と連携し芸北地区の課題として、巧緻性や走力など、外遊び不足から体力の伸び悩み。各校で発達段階における体力の向上を図る。中学校では球技の時間などの増加。運動の時間の確保を積極的に行う。	A	・全体を通して、評価結果は適正である。 ・評価項目等が全体的に小中共通なものになりつつあるが、教育目標やミッション等にも、小中のつながりや共通な点が見えると、連携の意義がさらに深まる。
		・基本的な生活習慣の徹底	・「起床 - 就寝 - 学習時間」「朝食の摂取」について、生徒実態に応じた指導	・「起床 - 就寝 - 学習時間」「朝食の摂取」について生徒の肯定的な回答の割合	80%	「時間」66.7% 「朝食」97%	83.4% 121%	「時間」75% 「朝食」93.6%	93.8% 117%	3 4	三点固定（起床・就寝・学習開始時刻）について1学期と比較して改善した。朝食摂取状況については、ほぼ横ばいである。	今後も、生活リズムや朝食摂取と深い関わりがある「ネットとのつき合い方」について啓発する。また小中高連携を図りながら、指導を工夫する。	A	・生活習慣については、起床にしぼって取り組む事も焦点化できる一つの方法。
豊かな心	あいさつの励行ふるさとを愛する生徒の育成	・自らあいさつをし、場に応じてあいさつができる。	・生徒会目標と連動した場に応じたあいさつの指導	・「自ら進んであいさつをしている（同級生や先輩・後輩、先生、地域の人）」と回答した割合（生徒アンケート）	80%	93.9%	117%	90.7%	113%	4	生徒会の取組等により、日常的に自ら進んであいさつをする習慣が身につけている。芸中三則の1つである停止挨拶を意識している生徒も多い。	道徳の学習や生徒会活動等を通して礼儀の意義について学ぶとともに、場に応じたあいさつの大切さについて考える機会を設け、実行できる力を育成する。	A	・芸北の町で暮らしたいと思う子どもを育てようとしていることが伝わる。
		・ふるさとに誇りと愛着を持った生徒の育成	・総合的な学習の時間での地域教材や人材を活用した授業実践 ・将来の展望を見据えたキャリア教育の実施	・「芸北が好き」「将来、ふるさとに貢献（生活・就労）したい」と回答した割合（生徒アンケート）	80%	「好き」100% 「貢献」46.1%	125% 57.6%	「好き」96.9% 「貢献」68.8%	121% 86%	4 3	地域の方からの学びや交流を通してふるさとの良さを学ぶことで、誇りと愛着を育成することができた。また、将来ふるさとに貢献したいと考えている生徒が22.7%増えた。	職場体験や地域の良さを知る学習をブラッシュアップしながら行い、ふるさとの新たな良さを見つけることができる視点を育てていく。	A	・地域に貢献するとはどのような姿なのかを明確にしたなら、生徒もさらに評価しやすくなる。
確かな学力	小規模校だからこそできる教育実践に基づき、思考力・判断力・表現力などの確かな学力を身に付けた生徒の育成	・基礎的・基本的な学力の定着	・自主学習ノートの内容指導の徹底 ・細やかなノート指導 ・家庭学習の習慣化の徹底	・実力テストの全国平均点との比較	学年平均が全国平均を上回る	3年6月113.8% 9月109.3%	3年計112%	3年11月106.0%	3年計109.6%	4	各教科から出される課題や宿題などの提出物は概ね出せており、基礎学力の定着が見られると考えられる。	日々の授業や生活の中で、有用性や楽しさを伝えることで、主体的に学ぼうとする生徒を育成する。	A	・地域に貢献するとはどのような姿なのかを明確にしたなら、生徒もさらに評価しやすくなる。
		・小規模校ならではの特性を活かす。	・授業改善を図り、生徒一人一人の学習のつまずきをていねいに指導する。	・「授業で先生は、ていねいに教えてくれる。」と回答した割合（生徒アンケート）	80%	100%	125%	96.9%	121.1%	4	授業での机間指導や提出物に対する指導など個に応じた取組ができていて成果であると考えられる。	ていねいに教える場面と、思考する場面を分け、場面に応じた指導を個々に行えるように生徒の様子を把握する。	A	・地域に貢献するとはどのような姿なのかを明確にしたなら、生徒もさらに評価しやすくなる。
信頼される学校	生徒の安全・安心を最優先に、保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりの推進	・積極的な学校の情報の発信	・学校だより等を通じて、生徒の学習活動、学校の様子を積極的に発信する。	・「学校は、学校の取組・子どもの様子について、積極的に情報公開している。」と回答した割合（保護者アンケート）	80%以上	96.4%	120%	80.7%	100%	4	アンケートで「どちらとも言えない」と回答した人が増加したため、達成割合が減少した。	来年度も、生徒の学習の成果を発表する場を充実させる。また、連絡ツール tetoru の活用で配布物等も直接保護者にわたるよう工夫していく。	A	・地域に貢献するとはどのような姿なのかを明確にしたなら、生徒もさらに評価しやすくなる。
		・地域とのつながりづくり	・生徒が地域の方々と関わり、地域での行事や活動への参加を促す。	・「地域の人と関わり、地域の行事に積極的に参加している。」と回答した割合（生徒アンケート）	80%以上	93.9%	117%	93.8%	117%	4	中間評価に引き続き、地域の人との関りを感じながら学習することができた。	地域の行事につながる取組を学校の中に増やしていく。生徒主導で地域に出ていく機会をさらに充実させる。	A	・地域に貢献するとはどのような姿なのかを明確にしたなら、生徒もさらに評価しやすくなる。

【自己評価の評価規準】 4（達成 100%以上） 3（おおむね達成 80～99%） 2（もう少し 60～79%） 1（できていない 60%未満）
 【学校運営協議会の評価基準】 A（評価は適正） B（評価は不適正） C（わからない）